

平成19年度食料需給表のポイント

1 食料自給率

平成19年度の食料自給率は、カロリーベースは前年度から1ポイント増加し40%、生産額ベースは前年度から2ポイント低下し66%

2 消費と生産

(1) カロリーベース

消費面では、供給熱量(1人・1日当たり)は、対前年度1kcal増の2,551kcal(前年度比0.03%増)

生産面では、国産熱量(1人・1日当たり)は、対前年度13kcal増の1,016kcal(前年度比1.3%増)

(2) 生産額ベース

食料の国内消費仕向額は、前年度から781億円増の15兆941億円(対前年度比0.5%増)

食料の国内生産額は、前年度から2,601億円減の10兆38億円(対前年度比2.5%減)

3 主な品目の食料自給率に対する影響

(1) カロリーベース

食料自給率上昇の要因となった主な品目

小麦については、作付面積が減少(4%)したものの、主産地である北海道や九州などで天候に恵まれたため(単収: +13%)、生産量が過去10年で最高の91万トンとなり、国産熱量が増加

米については、前年度に比べて1人1年当たりの消費量が0.4kg増加(61.0kg→61.4kg)したことから、自給率の高い米の供給カロリー全体に占める割合が増加

砂糖類については、天候に恵まれたため、てんさいの収穫量が増加するとともに、さとうきびの収穫面積、収穫量が増加したことにより、国内産糖の生産量が増加(+3.5%)

ばれいしょについては、春植えばれいしょが比較的天候に恵まれたため、作柄の悪かった前年に比べ生産量が増加(+9.2%)

みかんについては、裏年であった前年に比べ、表年となったことから、生産量が増加(+27%)

食料自給率の低下に寄与した主な要因

油脂類のうち、魚油については、原料となる魚種の漁獲量の減少や需要の減少に伴い、国内生産量が減少（魚油生産量： 13%）

牛乳乳製品については、夏場の猛暑の影響等から国内生産量が減少（ 0.8%）する一方、チーズ等の輸入量が増加（ +1.6%）

かんしょについては、主産地である鹿児島県における台風や高温・小雨の影響により、前年に比べ生産量が減少（ 2.1%）

（ 2 ）生産額ベース

食料自給率低下の要因となった主な品目

野菜については、たまねぎ、にんじん、きゅうり、トマト、なすなどの果菜類を中心に国内生産量が増加したものの、需要の減少のため価格が低下し、国内生産額が減少

米については、前年に比べて米価が下落し、国内生産額が減少

畜産物のうち牛肉及び鶏卵については、国内生産量が増加したものの、供給増による価格の低下に加え、とうもろこし等の国際相場の上昇を受けて配合飼料価格が上昇したこと等から輸入飼料額が増加し、国内生産額が減少

（注）畜産物の国内生産額は、輸入飼料額を控除して算出

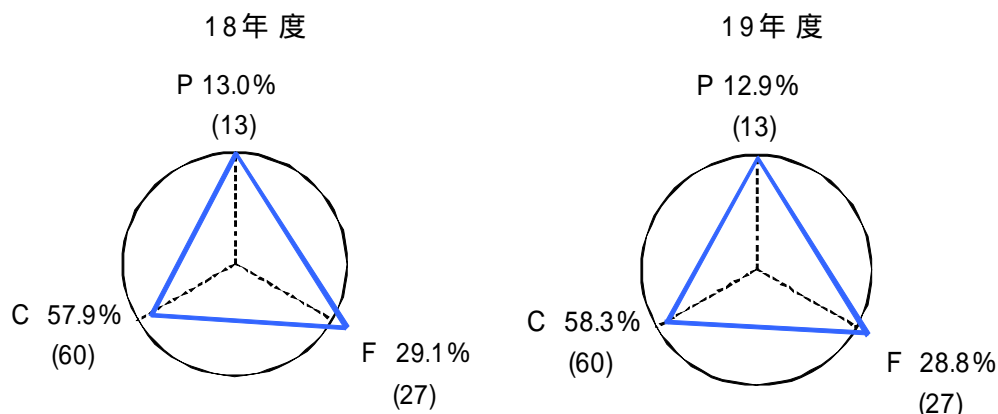
食料自給率の上昇に寄与した主な要因

いも類のうちかんしょについては、台風や高温少雨の影響により生産量が減少したものの国産価格が大幅に上昇し、国内生産額が増加

果実のうち、みかんについては、生産量の増加が価格の低下を上回ったこと、りんごについては、品質が良好であったことにより価格が上昇したこと等により、国内生産額が増加

4 P F C バランス

米の消費増、魚介類の消費減、油脂類の消費減などにより、前年度に比べて、炭水化物の割合が0.4ポイント増加、たんぱく質の割合が0.1ポイント減少、脂質の割合が0.3ポイント減少したことから、昨年度に比べて改善



（注）括弧内の数字は、平成27年度における望ましい食料消費の姿に対応したP F Cバランス